

第21回生物学会総会記録

総会第1日 5月27日(土)

於 県立姫路東高等学校

あいにく朝からの雨と神姫バスのストが重なったため開会が少し遅れたが、それでも南は淡路、北は但馬の県下各地から続々と集まった会員は約100名に達した。

紅谷会長の挨拶、県教委広幸先生・会場校竹島校長の祝辞と挨拶のあと森・三木生物研究奨励金授与が行われた。本年は植物の核型分析の研究で兵庫高校の近藤昭一郎先生が、また淡路島南部のプランクトンの研究で三原高校の富川哲夫先生がそれぞれ受賞された。

つぎに、議長として琴丘高校の丸尾先生と姫路高校の森本先生が選ばれ議事に入った。まず会長改選問題が討議され県高校教育研究会生物部会との関連から、会長には福田鳴尾高校校長(現副会長)を推薦、現会長の紅谷進二先生を名誉会長に推戴することに決定した。引続き新会長の手によって、紅谷先生の多年のご功績に対する感謝状の贈呈が行なわれた。つぎの議題である次期総会場は西宮芦屋支部に決定、本年度夏期行事は8月17、18日頃水上支部の世話で採集会をもつことになった。会計報告も終わり、議長のスムーズな議事進行のおかげで11時には予定通り全部の議事を終了することができ、会員の研究発表に移った。

今年は滝川高校の佐藤先生がご自分で作製された美しいカラースライドをもとに核酸と生物の進化について発表され、つぎに育英高校の細見先生からムラサキガイの極相に至る遷移とムラサキガイの付着について、スライドを併用しての研究発表があり、午前の部を閉じた。

なお、会場には播磨地方の藻類と植物性プランクトン241種の顕微鏡写真(姫路東高今津先生出品)と播磨沿岸産の海藻標本と海藻絵葉書約160点(金澤出品)が展示され昼食時の自由参観に供された。

午後は1時より神戸大学医学部教授須田勇先生よりバイオサイバネティクス—新しい世代に対する生物科学教育の基盤—と題しての講演が2時間にわたって行なわれ、先生の学者としての厳しい研究態度に深い感銘を受けた。講演が終って科学映画女王蜂の神秘とオトシミの観察の2本が上映されたが、いずれも科学技術映画祭受賞作品で、小さなオトシミが行なう巣作り作業が優れた知恵とさえ思わせる自然の巧妙さに感嘆させられながら午後4時予定通り総会第1日目の日程を終った。

総会第2日 5月28日(日)

於 手柄山中央公園・水族館～的形海岸



的形海岸で安藤先生より貝類の話聞く

市営バスで9時姫路駅前出発、胴乱やカメラを携えた採集姿の会員約40名を乗せたバスは産業道路を手柄山中央公園へと向かう。昨日とは違って変わった好天気に気分も壮快、慰霊塔から眺める白鷺城も一きわ美しい。

水族館では館長さんの案内で、おりから開催中の南極生物展を見学し、330種4,500匹の飼育魚類のほか、普通では見られない魚の病院や大規模な浄化還流装置を見学することができた。

11時水族館の見学を終わりの形海岸へ向かう。県花ノジギクの群生する丘を越え、条架式塩田の横を歩いて海岸へ出る。浜では、佐藤先生より姫路市近傍地質略図をもとに付近の地質鉱物についての説明を聞く。また安藤先生よりユーモアたっぷりの貝類の話聞き(写真参照)藤本先生には海岸植物の採集指導をして頂く。

波静かな瀬戸内の海を眺めながら昼食をとり、午後再び採集にかかる。ハマナデシコ・ハマツメクサ・ハマボッス・ハマボウフウ・ハマヒルガオ・ハマジャ・ハマゴウ・ハマエンドウなど浜のついた海岸植物だけでも数多く、藤本先生も説明に忙しい。

午後2時すぎ採集を終わり迎いのバスで帰途につき、3時姫路駅前解散する。これで2日間にわたる総会をなんとか無事に終了することができたわけであるが、公私共にご繁忙の中を指導に当たって下さった講師の先生方、準備万端と当日のお世話を頂いた本部並びに姫路支部役員の先生方に厚くお礼申し上げたい。

(金澤 龍)